

平成 25 年度 第 1 回 遠江国分寺跡整備委員会 議事要録

1. 日 時 平成 25 年 10 月 3 日 (木) 15:00~16:40
2. 会議場所 ワークピア磐田 2 階 視聴覚室
3. 出席者 整備委員: 8 名
助 言: 静岡県教育委員会文化財保護課職員 1 名
事務局: 教育長、教育委員会事務局長、文化財課職員 4 名
傍 聴 者: なし

4. 会議要旨

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 磐田市教育長あいさつ
- (4) 静岡県教育委員会あいさつ
- (5) 整備委員及び事務局紹介
- (6) 整備委員会委員長・副委員長選出
- (7) 整備委員会委員長あいさつ
- (8) 議 事

(1) 平成 25 年度事業について (事務局説明)

特別史跡指定地の公有化

- ・ 個人所有の宅地 登記簿面積 586.54 m²、実測面積 703.78 m²
 - ・ 境界確認及び測量の結果、実測面積が約 2 割増えた。買上げ費用増のため、現在補助事業計画の変更 (国庫・県費補助金の増額) と市補正予算の手続き中
- 発掘調査及び整理作業
- ・ 築地堀跡 (東築地) 165 m²を発掘調査 (8 月~11 月、10 月 13 日現地説明会 参加 120 名)
 - ・ 発掘調査概報印刷 (「発掘調査のあらまし」)
 - ・ 出土資料整理作業 (注記・接合・実測等)
 - ・ 金属製品保存処理 (鉄釘等 20 点)

その他 社会科副読本『遠江国分寺』を印刷、4 月に新中学 1 年生・教員に配布
整備委員会委員及び専門委員会の開催

[質疑応答]

委員 買上げの土地は想定より広がったのか？

事務局 境界確認を行ったところ、旧国道の側溝部分は民地 (買上地) に含まれ、測量の結果と併せて登記簿面積より 2 割増えることとなった。

委員 社会科副読本『遠江国分寺』は何部印刷か？

事務局 新中学 1 年生と教員用として約 1,700 部印刷する。

(2) 今後の再整備の方向について

事務局から、前回の整備委員会の資料を一部修正した資料にもとづき、整備の概要案を説明した。

整備のコンセプト

遠江国分寺の特徴を活かし、広大な古代寺院の広がりを感じられる整備

- ・主要な建物の基壇（土台部分）がすべて「木装基壇」（全国の遺跡でここだけ）
- ・全国で唯一木製の柱をもつ燈籠跡が確認されるなど、木を多用している市街地にある都市公園であること、また市役所に隣接していることを活かした整備
- ・市民が憩い、活用できる場としての整備

主な整備内容

- ・主な建物の基壇（土台部分）を「木装基壇」として復元・表示する
- ・基壇がわからない中門や南大門は土盛りで表現する
- ・塔の礎石を復元、基壇上面に埴（古代のレンガ状の焼き物）を敷く
- ・塔の木製階段を復元する
- ・金堂も建物範囲は埴を敷く。また、石段は盛土上に復元する
- ・回廊も建物部分は埴敷きにする
- ・木製燈籠を擬木で復元する
- ・発掘調査の結果、建物跡の残存状況が悪く、復元設計可能な建物跡がないため、建物の復元は行わない
- ・遺構に影響を与えている樹木や景観を妨げている樹木は伐採または整理する
- ・花壇を整理する。また、万葉の植物縁園や薬草園を検討する
- ・主たる入口は南側とし、南大門南側は芝生広場とする。
- ・本庁舎に展望室を設けることを検討する
- ・休憩施設として、掘立柱風建物の四阿^{あづやま}として設置することを検討する
- ・排水対策、歩道設置（車イス対応）

〔質疑応答・意見等〕

委員 現状ある基壇整備の石などは全部撤去することになるのか？

事務局 今の基壇整備（の縁）は石製という想定であるため、花崗岩の縁石を設置しているが、木装基壇と判明したことから縁石は撤去し、木装基壇として整備することになる。ただし、文化庁からは縁石の再利用を考えるようにいわれている。

委員 社会科副読本『遠江国分寺』は、整備に際してどう活かしていくのか？

事務局 副読本にも使われているコンピュータ・グラフィックス（CG）は、再整備のための発掘調査を始める前に作っているため、基壇は石製となっている。今は印刷時に基壇部分を木らしく茶色に塗っているが、基壇の大きさも変わったものがある。

委員 改訂版を作成し、ガイダンスホール等で活かした方がよい。

委員 ヨーロッパで昔のものを 100 年かけて復元するというのがある。築地塀を 100 年かけて市民こぞって造ったらどうか？

委員 築地塀を部分的に復元するというのは可能だが、雨に弱いため屋根をつけないといけない。また築地塀は人が突いて造るが、そうすると時間はかなりかかる。古代の工事がどうだったかという体験学習にはなる。

委員 築地塀は西側で基壇幅がわかっているのだから、復元は可能。アプローチとしての部分的な復元ならよいが、たとえば東側を全部築地塀にしてしまう

と異様な雰囲気になってしまうかもしれない。

委員 木装基壇の木の種類は？硬くするために加工しているのか？

事務局 木の種類は炭を分析した結果、ほとんどがヒノキで、一部コウヤマキが使われている。木は腐りやすいため、傷んだら造り直している。腐りにくくする薬品的なものとして漆や朱を塗った可能性も考えられるが、実際に使ったかはわからない。

委員 万葉の植物園や薬草園は、どういう価値があったのか？薬草というと、医学とか人間の健康に関するものなので。

事務局 各地の発掘調査で国分寺にはいろいろなものを栽培した畑などがあったことがわかっている。薬草を実際に栽培していたかはわからない。

委員 国分寺と駅南の国府、次の見付の国府などとの関係などを含めた整備計画にする必要がある。

事務局 整備基本構想では、史跡指定地と伽藍地、八幡宮を景観保存ゾーンとしている。駅南や見付の国府を含めて、全体構想と個別構想という形にしているので、整備基本計画でもこれに準じた形にしていかなければと考えている。

委員 具体的にどう活用していくか、市の中で話をしてもらった方がよい。その活用の仕方が、どう整備するかに結びついてくる。国分寺まつりなどでの実績があるので、それをふまえて使い方を考えるのがよい。

事務局 史跡なので学習の場が優先されると思うが、それだけでは人が集まらないので国分寺まつりを始めとして、いろいろなイベントで活用できる形にしていかなければいけないと考えている。それと、花は人を呼ぶので、万葉の植物を植えることにより市民に親しまれる空間になればと思っている。ワークショップなどでの市民の意見も基本計画に活かしていきたい。

委員 国分寺まつりの中心になっている人たちは、七重塔を建てたいという思いがある。遺構の上では、遺構を壊してしまうことになるので難しい。木装基壇はきちんと復元して、その後ろに七重塔を建てるのは可能か？

委員 七重塔はかなりの基礎になるので、指定地の中では多分許可がでないと思う。象徴的な建物は実際にあった場所に建てるというのが原則で、それができなければやらないということになる。場所を変えたとしたら、史跡指定地の外にすることになる。

委員 現在国分寺跡へはいろいろなところから入ることができる、できれば見学をする玄関になるところがあるとよい。それと、隣の八幡宮や見付学校もあるので、うまく連携して観光的なイベントなどで皆さんに来てもらうような計画もお願いしたい。

委員 お寺の正面は南になるので、南からのアプローチがひとつあり、八幡宮との関係もあるので、東からもある程度出入りできる形にするようになると思う。

委員 発掘調査しているところは幹線に面しているので、調査中ですよ、という看板を出せば、国分寺に関心をもってもらえると思う。

委員 18年度に磐田であった全国国分寺サミットは今どうなっているのか？

事務局 各地が持ち回りのような形で開催している。今年は岡山県の津山市(美作)

国分寺)で開催される。

委員 この概要はラフスケッチのようなものだが、これを計画として作っていくのか？また、いつ基本計画を出して、設計をいつといったものは？

事務局 現在、県を通じて国と協議し、この概要案でよいのか、大幅な修正が必要なのか、という指導を受けたいと考えている。

委員 いろいろな意見が出たが、これについての盛り込みや検討はどういう形になるのか？

事務局 現在は構想から計画へ移る段階で、来年度以降にある程度の計画が示せればと考えている。

委員 発掘調査の報告書はいつまでに出すことになるのか？

事務局 平成 27 年度を予定している。